

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援ルームそらまめ		
○保護者評価実施期間	R7年 11月 1日		～ R7年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	R7年 11月 1日		～ R7年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児様一人ひとりの「やってみたらできた！」を大切にしながら、その子の「やってみたい！」という姿を大事にしている。一つの活動だけに偏らずに、様々な活動を通して、こども同士の関わり合いをサポートしている。	スタッフ間で発達支援をより理解しながら、利用児さんの発達をサポートできるよう研修会や学習会を行っている。こども一人ひとりを大切に、スタッフが発達のサポートができるよう、スタッフがそれぞれ持つ持ち味を活かしていけるようにしている。	チームワークを大切にしながら、支援の場でより発揮できるよう、研修会や学習会、スタッフの話しあいの場など行ってまいります。
2	活動が偏らないよう、様々な活動を行うようにしている。また活動ごとにねらいなどを設け、利用児さんそれぞれの発達を考慮しながら、取り組めるようにしている。	こども一人ひとりの発達を考慮しながら、「やってみたらできた！」といった次につながるような活動が行えるよう、ねらいなどを考え、支援に活かしている。	支援を通して、こども一人ひとりの発達をよりスタッフが理解し、活動の場でいかせるよう、研修会や学習会などを続けてまいります。
3	毎回療育後に保護者様へ活動の様子をお伝えしたり、定期的な面談やお話する機会を設けています。保護者様や関係機関のスタッフ様と連携を大切に、共感的な支援を心がけている。	面談といった形だけではなく、保護者様の困りごとや相談ごとに丁寧にお伺いするために電話やメールなどでお話を、柔軟な方法で対応できるようにしている。	ご家族様のご要望に応じて、継続的な支援が行えるよう、関係機関等への支援内容の引継ぎを適切に行うよう努めている。また支援を大切にするための研修会や学習会の内容を充実していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援を行う場所ごとにある「段差などに注意」が必要との意見あり。	こども一人ひとりに適切に安全に支援の場の提供を行えるように、必要に応じてコーナガードなどを用いたりしているが、有効活用しきれていない点が課題である。	療育終了後のスタッフ間の話し合いの場での、気づきを大切にし、検討、適切に対応を行っていく。
2	対応マニュアルなど、支援の場で生かせる機会が少ないことが挙げられる。	各対応マニュアルはあるものの、よい意味でマニュアルを支援の場で使用する機会がなく、課題になっているのではないかと。	発生を想定した訓練を繰り返し行っていくことで、支援の場で発生した際、各対応マニュアルに応じて行動できるようにしていく。
3	保護者同士の交流に関する自己評価が低く、課題として認識している。	限られた時間の中では、利用児さんや保護者様のニーズに対して、お伝えすることや的確に対応するなど難しい点がある。	ニーズを的確に把握できるよう、利用児さんや保護者様がいつでも相談できる環境づくりに努める。定期的な面談を実施し、お子様の状況、進捗をしっかりとお伝えする。保護者様が送迎までの時間に、気軽に相談できる場を設けていく。